

1 単元名 ティーボール

2 運動の特性

(1) 一般的特性

2つのチームが攻撃と守備を交代で行い、ティーに乗せたボールを打ち、ベースを回って得点を上げたり、相手の得点を防いだりして勝敗を競い合うことが楽しい運動である。

(2) 子どもから見た特性

～省略～

【考察】

A 運動の楽しさの習得状況について

本学級は、日頃から体を動かすことを好む子どもと運動そのものが嫌いで普段から体を動かす習慣のない子どもの二極化が見られる。休み時間や放課後の過ごし方など、これまでの日常的な運動経験が、体育学習への意欲や運動能力差に影響しているものと考えられる。

実態調査では、簡易化したティーボールのゲームを行ったところ、運動が苦手な子どもも「楽しかった」「やってみたい」と感じていることがわかった。また、ティーボールのゲームで楽しいのは、「点が入ったとき」「遠くまで打てたとき」と学級の半数の子どもたちが感じている。また、本単元を終えたときに「打つ・捕る・投げる動きをもっと上手になってほしい」と考えている子どもは61.8%だった。

そこで、本単元では、子どもたちが楽しさを感じている「打つ」気持ち良さを十分に味わわせ、全員が点を取る楽しさを経験できるような手立てを工夫していきたい。また、ゲームを通して、チームで得点したり、失点を防いだりする楽しさも味わわせながら、「打つ→走る」、「反応する→捕る→投げる」といったベースボール型特有の動作（技能）を身に付けさせたい。

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

本単元は、5年生になってから初めてのチームでの学習となる。個人のめあてとともにチームのめあてを立てることになるため、教師のアドバイスが必要となる子どもが増えるだろう。また、実態調査では、計画やめあてを立てることに自信がない子どもがいることがわかった。自分のめあてをもって学習に取り組むことができるよう、個別に声をかけたり、学習カードに目を通したりしながら支援していきたい。また、ティーボールの学習で大切な点として、学級の半数を超える子どもが「チームワーク（協力・思いやり）」を挙げており、多くの子どもが友達への思いやりとマナーを重視していることがわかった。その一方で「ずるをする人がいる」「(技能差から)やる気がない人がいてつまらない」と感じている子どももおり、みんなが楽しくティーボールを行うためにはどうしたらよいか、一人一人にしっかりと考えさせるようにしていきたい。しかし、ティーボールのゲームを楽しむためには、マナーやチームワークだけでなく、「打つ・捕る・投げる・走る」といった技能面の向上も必要であることから、めあてを立てる際には、心情面、技能面に偏りがないよう気を付けて指導を行いたい。

以上のような実態から、チームのモチベーションをメンバー全員が把握し、それを生かせるようなチームのめあての設定と個人のめあてのめあてをもたせ方を大切にしながら学習を進めていくようにする。できなかったことができるようになった、といった実感をもたせるとともに、チームで得点したり、失点を防いだりする楽しさを味わわせたい。そして、ルールやマナーを守るといった情意面の深まりも感じられるような学習にしていきたい。

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

本学級の子どもは、4年時にキックベースボールを経験しているが、打撃や送球、捕球の習得状況はかなり低い。試しのゲームで得点を上げた子どももいるが、ねらって打ったというよりは、偶然当たったということが多かったように感じた。実態調査では、「点を取りたい」「上手に打ったり、投げたりしたい」という願いを持っている子どもが多いことが明らかになった。

このような実態を踏まえ、実態調査の結果や習い事等の日常の運動経験、人間関係を考慮してチーム編成を行い、できる限り等質のチームを編成する。そして、「打つ」「捕る」「投げる」等の基本的な技能を身に付け、より多くの得点につながるようにチームで練習する時間を設けるようにする。また、経験による技能差が大きく、得意な子どもが遠慮がちになったり、不得意な子どもが戦意を喪失したりすることが予想されるため、技能差にかかわらず、誰もが心から楽しめるティーボールのルールを工夫していききたい。

3 研究主題と学習の手立て

(1) 市教研体育部会の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

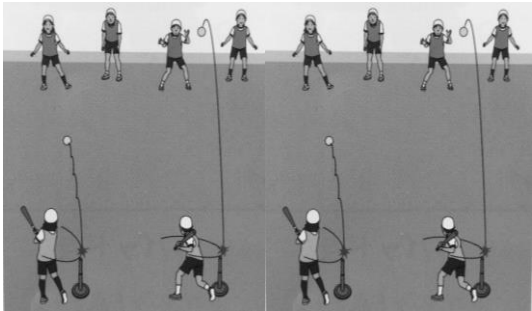
(2) 視点と学習の手立て

視点1 子どもの実態を的確に把握するとともに、運動の特性と指導内容を明確にした上で道すじや学習活動を工夫し、ねらいを明らかにすることで子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようにする。

○ティーボールの楽しさを味わうための感覚づくりの運動（マク✓タイム）

本学級には、運動を苦手だと感じていたり、初めて取り組む運動に抵抗を感じたりする子どもが数名いる。

少人数（5・6人チーム）で練習する時間を設けることで、お互いの課題（打つ・捕る・投げる等）を個々にアドバイスし合い、自信をもってゲームに参加できるようになると考える。



マク✓タイム練習（例）（オリエンテーションカード参照）
・パートナーキャッチ（投・捕）・紅白球バッティング（打）
・ボーンキャッチ&フライキャッチ（投・捕）

打ちマク✓・捕りマク✓の練習（例）

視点2 一人一人のよさを伸ばし、できる喜びを実感できる手立てを工夫する。

○ティーボールの楽しさを味わうための場や用具、ルールの工夫

- ・ 用具の工夫

バッティングティー

ティーボールのゲームの中で最も楽しいことは、バットを思い切り振り、ボールを遠くまで飛ばせた時である。そのため、ティーの高さは、バットを思い切り振ることのできる高さにする必要がある。そこで、ペットボトルを使い、一人一人のスイングの高さに合わせたバッ



バッティングティーの工夫

ティングティーを作るようにする。自分のティーをもつことで、自分のバッティングフォームやスイングへの関心が高まり、意欲をもって学習に取り組み、自信をもって打つことができるようになると考えた。学習の中で、自分に合った高さになるようにティーを調整しながら、気持ちよくスイングが行えるようにしたい。



「打つ」ことを楽しめるバット

バット

本單元では、子どもの願いでもある「ボールを打つ」喜びを存分に味わわせたい。そこで、一人一人の技能差に応じてバットを選べるようにする。重さの違うティーボール用のバット、短くボールの当たる面が広いアベレージバットだけでなく、テニス用ラケット、パドルテニス用ラケットを用意することで、ゲームの中で必要な技能を緩和し、どの子どもも「打つ」ことを楽しむことができるようにする。

ボール

ティーボールのゲームの流れは、打者がボールを打つところから始まる。守備側における状況判断を伴った動きもまたティーボールの楽しさのひとつだろう。その楽しさを味わうことができるようにするために、ティーボール用のウレタンボール（ケンコー1号）を使用する。ボールの種類をどのチームも共通にすることで、ボールの飛距離を予測し、ボールの捕球・送球、ベースカバー、中継プレー、バックアップなどのベースボール型特有の動きが豊富に学習できるようになると考える。



使用するウレタンボール

ルール

[基本のルール]

- ・1チーム5人又は6人（6チーム）→人数差がある場合は、守備5人・攻撃6人とする。
- ・セルフジャッジで進行する。
- ・判定があいまいな時はじゃんけんで決める。
- ・交代は打者一巡制。（両チームが4回攻撃したらゲームセット。）

[攻撃]

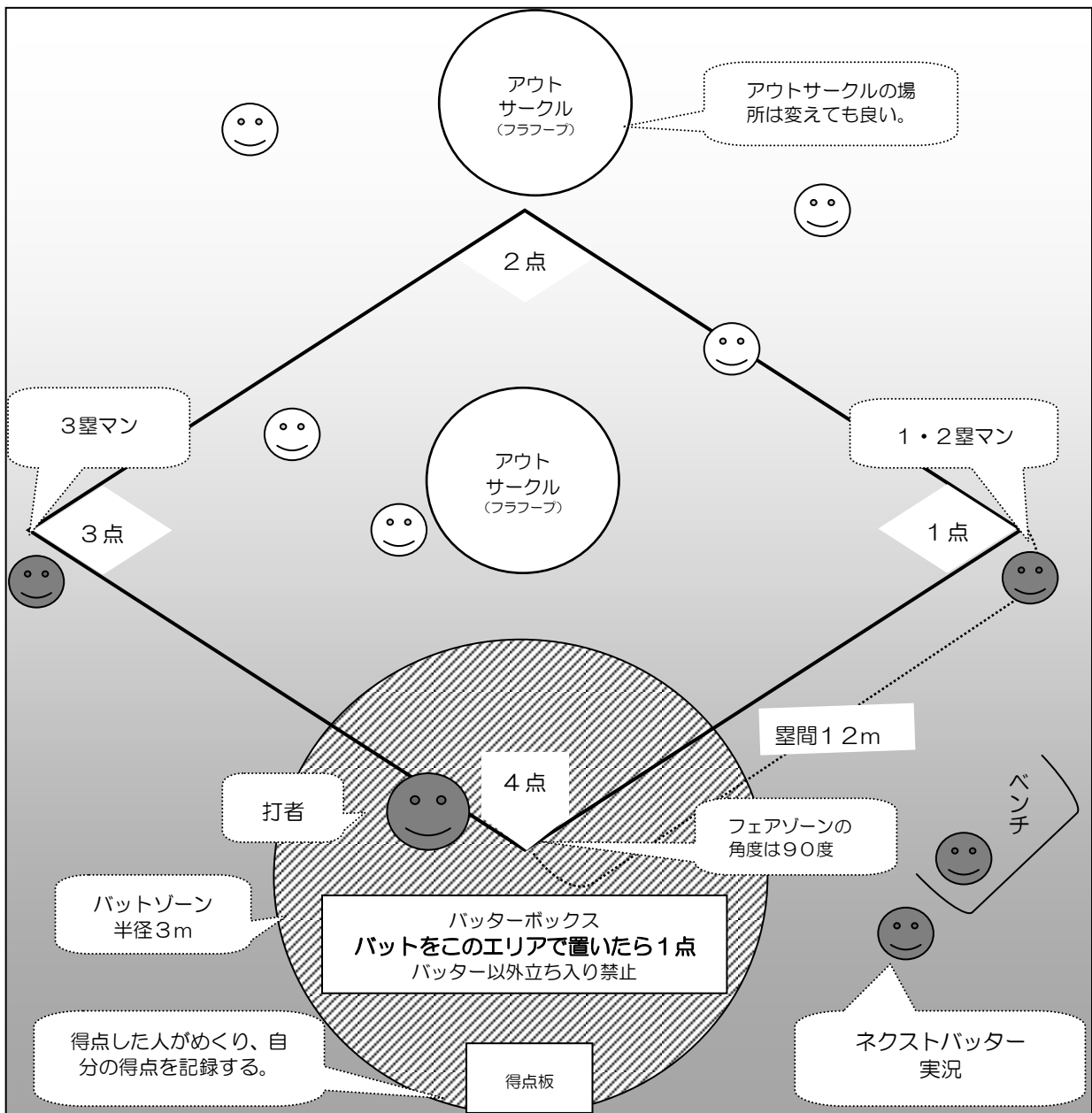
- ・バットゾーンにバットを置いたらプラス1点。（バット得点）
- ・ボールがフェアゾーンに入らなければファウルとなり、やり直しとする。（3回でアウト）
- ・ボールを打ったら走者となり、塁を踏むごとに1点。（1者残塁制、最大4点）アウトになる前までに踏んだ塁の数が得点となる。
- ・1・3塁には、攻撃側のプレイヤー（○塁マン）が立ち、走者は塁上の人にハイタッチしていく。（立つ人はローテーション）

[守備]

- ・守備側のチームが「アウト！」と言って、ボールをアウトサークル内で捕球すればアウト。（アウトサークル内で打球を待つことはできない。）
- ・アウトサークルは、内野、外野ともに各一つずつ。置き場所を変えても良い。
- ・フライアウトなし。（打球をノーバウンドで捕球してもアウトにはならない。）
- ・今日のラッキーマン（各チーム1人）をくじで決める。ラッキーマンは得点2倍。

・ 場の工夫

コート チームは、1チーム5・6人とし、得点を取る楽しさを存分に味わわせたい。



各塁には、攻撃側のプレイヤー（○塁マン）を配置する。○塁マンは、「回れ！」など走者にアドバイスをすることができるため、未経験の子どもも安心してプレーに取り組むことができ、チームで声をかけ合って攻撃する楽しさが味わえるようになるだろう。また、1者残塁制（残塁できるのは一人）を取り入れることで、打順を話し合い、誰もがホームを踏むチャンスが生まれると考えた。

守備では、打球に反応し、落下地点に動いてボールを捕球・送球する技能を身に付けさせたい。さらに、ベースカバー、中継プレー、バックアップなどチームで協力して守る楽しさも味わわせたい。そこで、守備側が失点を防ぐには、アウトサークル内で捕球するとアウトとなるというルールを設定する。内野と外野に一つずつアウトサークルを置くことで、どちらに送球するか各自が判断し、チーム内で声をかけ合えるようになると思う。このようなルールの設定を通して、全員で失点を防ぐ楽しさを味わえるようにしていきたい。

○支援を要する子どもへの手立て（省略）

4 学習のねらい（身に付けさせたい力）

○進んで運動に取り組み、ルールを守り助け合ったり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 【関心・意欲・態度】

○自分のチームの特徴に応じた作戦を立てることができるようにする。 【思考・判断】

○「打つ・捕る・投げる」などの技能を身に付け、ゲームの中で行うことができるようにする。

【技能】


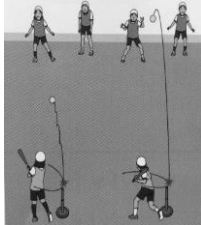
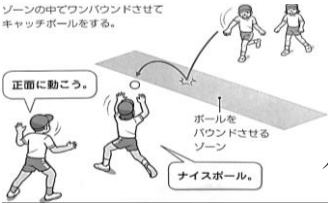
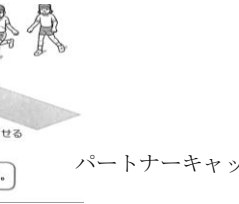
5 評価基準（おおむね満足できる状況）

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
単元の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ○集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ボール運動に進んで取り組もうとしている。 ○ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ○用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ○運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベースボール型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 ○チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベースボール型では、簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備をするための動きができる。
学習活動に即した評価	<ul style="list-style-type: none"> ①ゲームに進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ③安全に気を付けて、場や用具の準備や片付けをしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分に合っためあてを立てている。 ②チームの特徴に合った簡単な作戦（主に守り方）を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ティーに乗せたボールを打つことができる。 ②ボールの落下地点や転がる方向に反応して、その場に移動することができる。 ③投げる手と反対の足を踏み込んでボールを投げることができる。

6 学習の道すじ（6/7時間）

	1	2	3	4	5	6（本時）	7	
0 ↓ 4 5	オリエンテーション	つながる運動（マク✓タイム）						
		ねらい① 簡単なルールで、ティーボールを楽しむ。 （リーグ戦）				ねらい② チームに合った守り方を考えてティーボールを楽しむ。 （対抗戦）		
							まとめ	
関・意・態	③	②		①				
思・判			①		①	②	②	
技能	③	①	②	③	①	②	①	

7 学習活動と支援（本時6/7）

	学習内容と活動	教師の支援（○）・評価（◇）
はじめ	<p>1 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや道すじを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ○みんなで楽しめるティーボールの行い方を考え、マナーや約束について話し合う。 ○用具の使い方、場の準備や片付けの仕方、安全について理解する。 ○ボールの打ち方、捕り方、投げ方を知り、マク✓タイムの行い方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・打ちマク✓捕りマク✓ ・パートナーキャッチ ・紅白球バッティングなど ○試しのゲーム（2イニング）をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[対戦]</p> <p>Aコート 青 対 白</p> <p>Bコート 蛍光黄 対 緑</p> <p>Cコート オレ 対 黄</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習カードの書き方を理解する。 	<p>○バットの持ち方・打ち方やボールの投げ方・捕り方が視覚的に理解できるよう、掲示資料を使って説明する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">紅白球バッティング 打ちマク✓捕りマク✓</p> <p style="font-size: small; text-align: center;">ゾーンの中でワンバウンドさせてキャッチボールをする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">パートナーキャッチ</p> <p>○ゲームがスムーズに進行しないチームには、教師が入り、動き方を助言する。</p> <p>◇投げる手と反対の足を踏み込んでボールを投げることができる。【技能③】</p> <p>○協力して、片付けを行うよう声をかける。</p> <p>◇安全に気をつけて、場や用具の準備や片付けをしようとしている。【関心・意欲・態度③】</p>
なか	<p>1 学習の場づくりをし、準備運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チームごとに協力して場づくりをし、キャプテンを中心にストレッチを行う。 <p>2 チームごとにつながる運動(マク✓タイム)を行う。</p> <p>3 本時のねらいやめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時のゲームをもとに今日の作戦を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ねらい① 簡単なルールで、ティーボールを楽しもう。</p> </div> <p><予想されるめあての例></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ミスにはドンマイと声をかけよう。 ・ボールをしっかりと見て打つ。 ・バットの持ち方を確認して打つ。 ・ボールの落下地点におへそを向ける。 ・トンネルをしないように体の前でボールを止める </div>	<p>○協力して、すばやく場づくりを行うよう声をかける。</p> <p>○ストレッチを十分に行うことでけがを防ぐことにつながることを伝える。</p> <p>○チームの特徴、めあてに合った運動になっているか巡回して確認する。</p> <p>◇約束を守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。【関心・意欲・態度②】</p> <p>○前時の振り返りが作戦に生かされているか、巡回しながら確認する。</p>

4 ティーボールのゲームを楽しむ。

[2時間目]

- Aコート 青 対 蛍光黄
- Bコート 緑 対 オレンジ
- Cコート 白 対 黄

[3時間目]

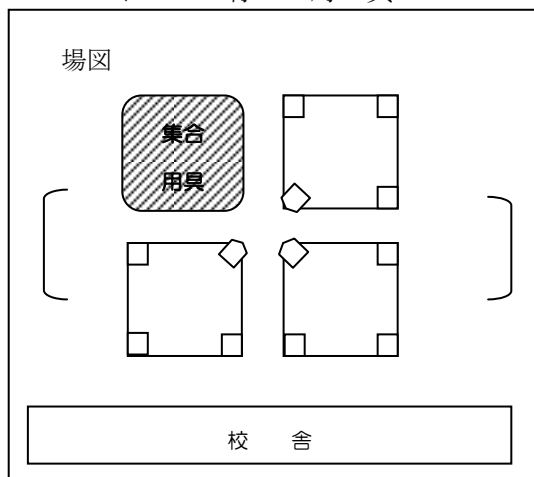
- Aコート 青 対 緑
- Bコート 白 対 オレンジ
- Cコート 黄 対 蛍光黄

[4時間目]

- Aコート 青 対 オレンジ
- Bコート 白 対 蛍光黄
- Cコート 緑 対 黄

[5時間目]

- Aコート オレンジ 対 蛍光黄
- Bコート 白 対 緑
- Cコート 青 対 黄



なか
か
①

5 振り返りをする。

- キャプテンを中心にチームカードに記入する。
 - ・試合結果
 - ・めあては達成できたか
 - ・今日のゲームを振り返る
 - ★アウトサークルの位置 ★守備位置
 - ・事実をもとに良かった点、反省点を振り返る。
- 個人の学習カードに振り返りを記入する。

6 整理運動をして、協力して後片付けをする。

- ゲームの開始と終了のときには、全員で気持ちの良いあいさつをするよう声をかける。
- ルールやマナーを守っている子どもや得点につながるプレーをしている子どもを称賛する。
- なかなか得点することができないチームや子どもには、ボールを最後まで見ることや、体の向きなど、打ち方の助言をする。
- うまく守ることができないチームや子どもには、補球の仕方や守備位置について助言する。
- 声をかけ合うことで、守備の連係がスムーズに行えることに気付かせる。
- ミスには、「ドンマイ」「大丈夫!」「いいよ」と声かけを行うと良いことを伝える。
- ゲームの中で守備の仕方や動き方を助言する。
- ◇ゲームに進んで取り組もうとしている。

【関心・意欲・態度①】

- ◇約束を守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。【関心・意欲・態度②】
- ◇自分にあつためあてを立てている。

【思考・判断①】

- ◇ティーに乗せたボールを打つことができる。

【技能①】

- ◇ボールの落下地点や転がる方向を予測して、その場に移動することができる。【技能②】
- ◇投げる手と反対の足を踏み込んでボールを投げることができる。【技能③】

- 話し合いがスムーズに行われているか巡回し、適宜助言する。
- 全体で共通理解を図ったほうが良いことがあれば、全体の振り返りで取り上げるようにする。
- 良い動き、技能のポイント、付け加えたいマナー等を掲示物に記入し、今後の学習に生かせるようにする。
- 協力して後片付けを行うよう声をかける。
- ◇安全に気をつけて、場や用具の準備や片付けをしようとしている。【関心・意欲・態度③】

	<p>1 学習の場づくりをし、準備運動を行う。 ○チームごとに協力して場づくりをし、キャプテンを中心にストレッチを行う。</p> <p>2 チームごとにつながる運動(マク✓タイム)を行う。</p> <p>3 本時のねらいやめあてを確認する。 ・前時のゲームをもとに今日の守り方を考える。 <守り方の例> ・○チームは、遠くまで打つから後ろの方で守ろう。 ・○さんは捕るのが上手だからアウトサークルの近くがいいね。</p>	<p>○協力して場づくりを行っているチームを称賛する。 ○体を使う部位のストレッチを念入りに行うよう声をかける。 ○チームを巡回し、ゲームに生かせる運動を行っているか確認する。 ○前時の振り返りが作戦に生かされているか、巡回しながら確認する。 ○前回の守備位置(チームカード)を確認しながら守り方を考えるよう促す。 ◇チームの特徴に合った簡単な作戦(主に守り方)を立てることができる。 【思考・判断②】</p>
	<p>ねらい② チームに合った守り方を考えてティーボールを楽しもう。</p>	
<p>なか②</p>	<p>4 ティーボールのゲームを楽しむ。 ○対戦相手とルールを確認し、あいさつをしてゲームを行う。</p> <div data-bbox="279 795 805 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">場図</p> </div> <p>6 振り返りをする。 ○キャプテンを中心にチームカードに記入する。 ・試合結果 ・めあては達成できたか ・今日のゲームを振り返る。 ★アウトサークルの位置 ★守備位置 ・事実をもとに良かった点、反省点を振り返る。 ○個人の学習カードに振り返りを記入する。</p> <p>7 整理運動をして、協力して後片付けをする。</p>	<p>○チームで声を出し合い、より楽しくゲームを行えるよう促す。 ○良いプレーやアドバイスをしているチームを称賛する。 ○コート巡回し、作戦がうまくいかなかったり、うまく得点につながらなかったりするチームには、個別に守り方、打ち方の助言をする。 ◇ティーに乗せたボールを打つことができる。 【技能①】 ◇ボールの落下地点や転がる方向に反応して、その場に移動することができる。 【技能②】 ○作戦がうまくいかなかったチームの話し合いには、教師が加わり、どうすれば得点につながるか考えるよう促す。 ○作戦を意識して動くよう声をかけたり、動き方がわからない子どもと一緒に動いたりする。 ○勝敗に固執し、スムーズに話し合いが行えていないチームには、教師が話し合いの視点を提供するようにする。 ○一人一回は話し合いで発言するように促す。 ○反省点ばかりではなく、良い点も見つけるよう助言する。 ○使った部位を意識して整理運動を行うよう声をかける。</p>
<p>まとめ</p>	<p>○運動に進んで取り組めたか。 ○ルールを守り、助け合って運動できたか。 ○場や用具の安全に気を配ったりすることができたか。 ○自分のチームの特徴に応じた作戦を立てることができたか。 ○「打つ・捕る・投げる」などの技能を身に付け、ゲームの中で行うことができたか。</p>	